

麦作情報 (Vol.3)

平成30年3月28日
 石巻農業改良普及センター
 TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>

1 1月以降の気象経過(図1)

<1月>下旬は気温が低く、降雪も

1月下旬の平均気温は平年差-2.3℃、降水量は平年比131%でした。

<2月>気温が低く、晴れの日が多い

2月は1か月を通して平年よりも気温が低く、日照時間は長く、降水量はかなり少なくなりました。(2月の平均気温:平年差-0.9℃、日照時間:平年比125%、降水量:平年比43%)

<3月>気温が高いが上旬に多雨

3月は上旬~中旬にかけて高温で推移しましたが、上旬の降水量は平年比489%と多雨でした。

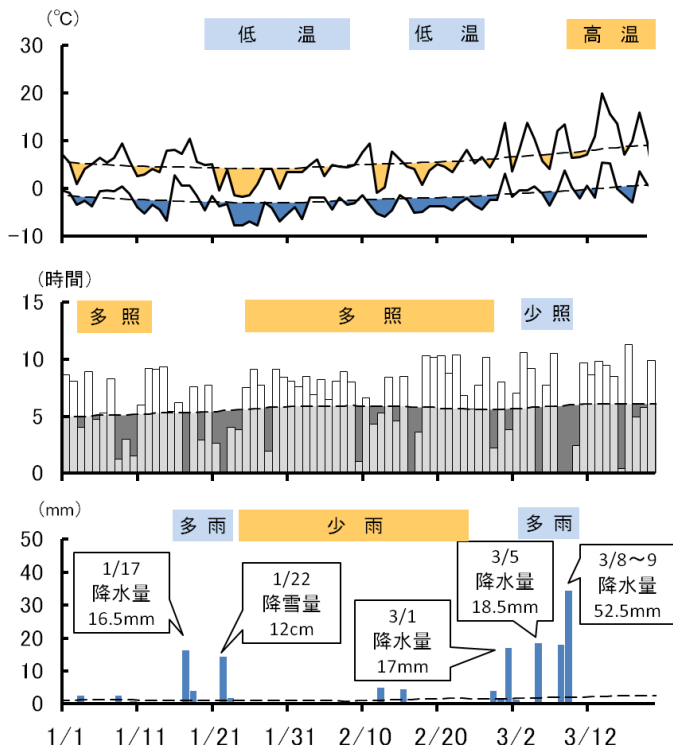


図1 気象経過(アメダス石巻)

※上:最高・最低気温, 中:日照時間, 下:降水量
 ※点線は平年値

2 生育調査ほの生育状況

(3月21日現在, 表1, 下写真)

- ◆ 草丈は、水沼シュンライは平年を上回っていますが、その他は平年を下回っています。
- ◆ 茎数は、水沼シュンライは平年を上回っていますが、その他では平年を大きく下回っています。
- ◆ 幼穂長は、真野ミノリムギで平年並、その他では平年に比べ大幅に短くなっています。大麦は一部の播種が早く生育が旺盛なほ場ではすでに幼穂形成期に達しておりますが、11月以降に播種したほ場などではまだ幼穂形成期に達しておらず、前年・平年に比べ2~3週間程度生育が遅くなっています。

表1 生育調査ほ調査結果(3月16日調査)

品種	調査ほ (旧市町)	播種日(月日)			草丈(cm)			茎数(本/m ²)			幼穂長(mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差
シュンライ	桃生中津山 (桃生)	10/28	+7	+8	7.5	-5.1	-5.1	325	96%	59%	1.5	-0.9	-1.2
	水沼 (石巻)	10/17	-3	-0	14.7	+3.4	+0.4	935	140%	108%	2.1	-0.9	-1.5
ミノリムギ	桃生高須賀 (桃生)	11/02	+13	+12	7.4	-8.7	-6.4	107	15%	18%	1.0	-1.1	-1.0
	真野 (石巻)	10/19	-4	-6	8.9	-4.8	-2.8	395	38%	59%	1.9	-0.5	+0.1
シラネコムギ	小船越 (河北)	11/13	+8	+26	10.3	-3.7	-1.8	248	41%	22%	0.2	-0.2	-0.6
	桃生榎崎 (桃生)	11/06	+18		9.1	-8.1		402	62%		0.3	-0.3	

※ 平年差・比は過去5か年の平均値との比較。播種日の+は遅い、-は早いことを示す。

※ 桃生榎崎シラネコムギ調査ほは、調査3年目のため平年差・比は記載しない



シュンライ(水沼)



ミノリムギ(真野)



シラネコムギ(小船越)

50
cm



シュンライ(桃生中津山)



ミノリムギ(桃生高須賀)



シラネコムギ(桃生榎崎)

3 今後の管理

(1) 排水対策

- ◆ 暗きよの水閘が閉じているほ場がないか、再点検しましょう。
- ◆ 大雨の後は、ほ場を巡回し排水口に稲わらなどが詰まっていないか確認しましょう。

(2) 追肥 ~ 平年より生育が遅れているほ場が多いです！ 適期追肥に努めましょう！ ~

① 幼穂形成期追肥(前号参照)

- ◆ 大麦は、既に幼穂形成期を迎えているほ場とこれから幼穂形成期に達するほ場が見られます。ほ場をよく観察し、適期に追肥を実施しましょう。また、小麦は4月上旬以降に幼穂形成期を迎えるほ場が多くなりますので、計画的に追肥しましょう。

② 減数分裂期追肥

- ◆ 大麦は、追肥が遅れると硬質麦の発生が多くなるので、次頁を参考に幼穂長や止葉葉耳間長を観察し、適期追肥に努めましょう。

- ◆ 追肥時期の幼穂長の目安は30mmです。この時期の幼穂は1日で5mm程度伸びるので、幼穂長が30mmとなる頃までには追肥作業が終わるようにしましょう。



表2 追肥の施用時期と施用量の目安

追肥の種類 (生育ステージ)		減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8~9割が出穂)
期待される効果		一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大 麦	時期	シュンライ 4月下旬 ----- ミノリムギ 4月下旬~5月上旬	硬質麦防止のため 実施しない
	10a当たり 施用量	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg)	
小 麦	時期	4月下旬~5月上旬	5月中旬
	10a当たり 施用量	窒素成分4~5kg (硫安20~25kg)	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg) ※ ゆきちからは2倍

※ 時期は平年の場合の大よその目安であり、実際には現地ほ場の幼穂長を見てから追肥時期を判断すること。

シラネコムギ、ゆきちからにおける減数分裂期追肥の増量による穂揃期追肥の省略

減数分裂期追肥を次のように増量することにより、穂揃期追肥を省略し、慣行と同等の収量・品質を確保することができます(普及に移す技術第83号・89号)。

シラネコムギ：10a当たり窒素成分で8~9kg (硫安現物量で40~45kg)

ゆきちから：10a当たり窒素成分で10kg (硫安現物量で50kg)

減数分裂期追肥時期の予測法① ～実際に幼穂長を測定して予測する～

- ◆ 減数分裂期頃の幼穂は比較的容易に確認することができます。
- ◆ 長さの中庸な主茎(1株内の最長茎)を3本以上採取し、茎の膨らんでいる部分を手で剥くか、カッターで縦方向に切り裂いて、幼穂の長さを測ります。
- ◆ 測定した幼穂長の平均が10mmであれば減数分裂期までの日数は8～12日後、20mmであれば3～4日後となります(下表)。

◎ 減数分裂期は、正確には主茎と1・2号分けつの幼穂長平均が30mmなので、主茎の幼穂長のみだと大麦の場合33～35mm程度あります。

芒は幼穂長に含めない

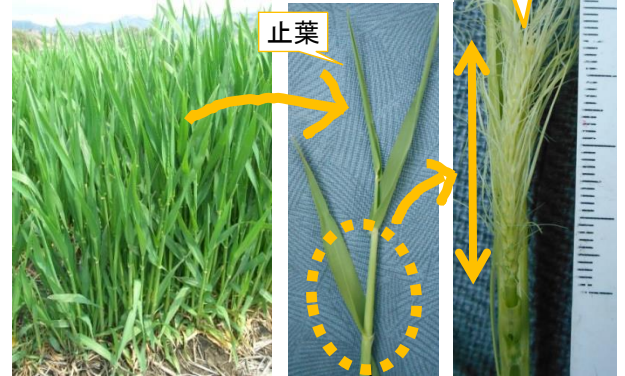


表3 減数分裂期を表中の日付に仮定した場合に、幼穂長が10mm, 20mmに達する日の目安

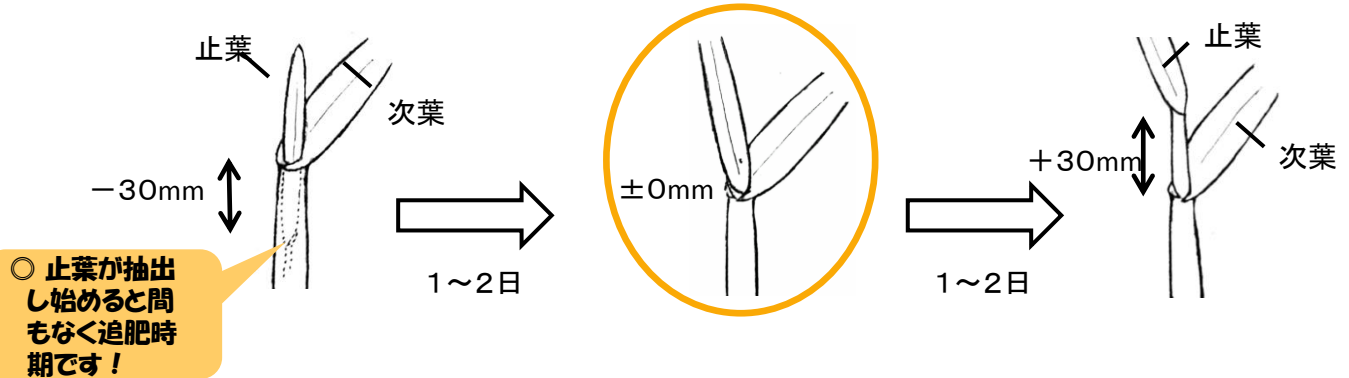
シュンライ			ミノリムギ			シラネコムギ		
幼穂長		減数分裂期	幼穂長		減数分裂期	幼穂長		減数分裂期
10mm	20mm		10mm	20mm		10mm	20mm	
3月25日	4月9日	4月15日	3月31日	4月9日	4月15日	4月14日	4月20日	4月25日
4月7日	4月15日	4月20日	4月13日	4月20日	4月25日	4月25日	5月1日	5月5日

※ 普及に移す技術第87号をもとに石巻アマダスの日平均気温(平年値)を使用して算出した。

減数分裂期追肥時期の予測法②

～止葉葉耳間長が±0mmを超えた茎の割合から、追肥の開始時期を判断する～

大麦(シュンライ/ミノリムギ) 2割程度の茎が止葉葉耳間長±0mm以上に達したとき
 小麦(シラネコムギ/ゆきちから/あおばの恋) 4～5割の茎が止葉葉耳間長±0mm以上に達したとき

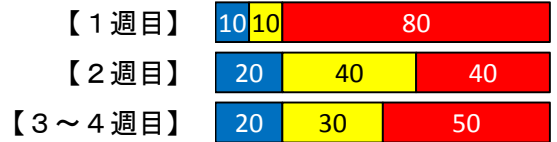
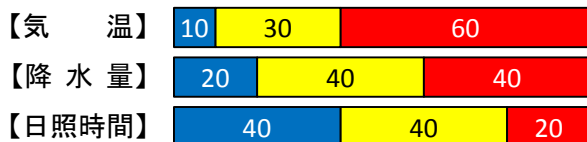


1か月予報 (3/24～4/23)
 仙台管区气象台 3月22日発表

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです!

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

<気温経過の各階級の確率(%)>



■ 低い(少ない) □ 平年並 ■ 高い(多い)

■ 低い □ 平年並 ■ 高い